



砺波総合病院から

病院のホームページもご覧ください。

市立砺波総合病院 ☎32-3320

『ロボット支援手術』と

その適用拡大について

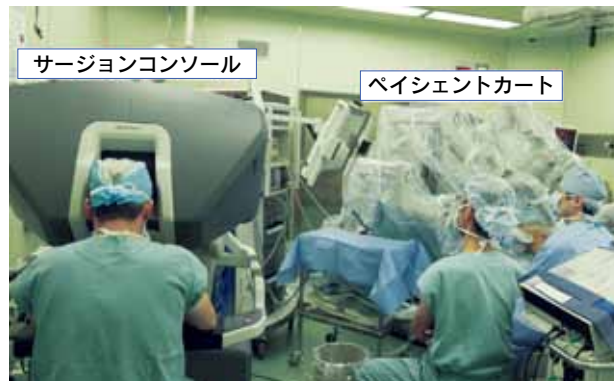
2017年7月に前立腺癌に対する『ロボット支援前立腺全摘除術』を開始したことについては、すでに本誌等でもご案内のとおりです。2018年4月、さらに腎臓癌に対する『ロボット支援腎部分切除術』を、5月には膀胱癌に対する『ロボット支援膀胱全摘除術』を開始しました。泌尿器科では、2019年末までに合計118人の患者さん（前立腺92人、腎臓21人、膀胱5人）に対して、『ロボット支援手術』を安全に実施することができました。

手術用ロボットは、人（術者）が手術をやり易くなるように手助けしてくれる医療機器です。ロボットではなく、術者が操縦席のような座席（サージションコンソール）に座って実際の手術操作を行います。術者が操作レバーを動かすと、ロボットアームに装着された手術用鉗子が患者さんの体内で連動して動きます（ペイシエント

泌尿器科部長 江川 雅之

カート）。「写真1」

人間の手や指は、ミリ単位の精密な操作を行う際に、どれだけ訓練を積んでも完全には消し去ることができない微細な震えが生じます。しかし手術用ロボットを使用することで、手振れが補正され、ミリ単位の細かい作業も精密かつ安全に行うことができます。また



【写真1】

患者さんの体内の様子を、立体的（3D）に拡大（最大10倍）した鮮明画像（ハイビジョン映像）で見ることができ、自身の手や指を患者さんの体内で実際に動かしているような感覚で、手術を行うことができます。「写真2」



【写真2】

もちろん、どのように手術を行うかを考え、状況に応じて瞬時に判断することは、手術用ロボットの役目ではありません。手術用ロボットの術者の手術操作を支援することで、「正しい判断をする術者」が行う手術の質や成績が向上します。

当院では、2019年に胃癌と直腸癌に対する『ロボット支援手術』も外科で開始されましたが、今後さらに他の分野についても適用を拡大していくものと考えられます。骨盤臓器脱に対する『ロボット支援手術』として保険適用が見込まれる手術の一つです。当院

では、2013年から「腹腔鏡下仙骨腫固定術」を行っており、2019年末までに合計150人の女性患者さんに同手術を行いました。正式な保険収載が決まりましたら、『ロボット支援仙骨腫固定術』も実施する予定です。

最後に、『ロボット支援手術』を希望される患者さんも含めて、当院を初めて受診される患者さんは、他の医療機関等からの紹介状（診療状況等の記載されている文書）を持って、受診されるようお願いいたします。

ピアサロンのご案内

ピアサロンとは、がん体験者の本人や家族が互いに語り合う場です。

同じ病気を経験した人同士と一緒に話をしてみませんか？

お気軽にご参加ください。

参加無料、予約不要です。

日時 3月13日(金) 午前10時～正午

場所 がん相談支援センター
(市立砺波総合病院南棟2階)

問合せ がん相談支援センター ☎ 32-3320(代)

